

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520188

研究課題名(和文) フランスにおけるラスキン受容—美術教育と文学

研究課題名(英文) Reception of works of John Ruskin in France - education of arts and literature

研究代表者

加藤 靖恵 (Yasue Kato)

名古屋大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90313725

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：ラスキン、比較文化、フランス文学、美術史、ブルースト

1. 研究計画の概要

従来イギリス文学、フランス文学、美学・美術史学、社会学といった個々の専門家が進めてきた研究の成果を、統合的視点から再構築し、また一方で個別の専門研究をさらに推進することに貢献する礎を形成することを目的とする。イギリスとフランスの文化交流史上興味深い事例として、19世紀のイギリスの美術評論家・社会思想家であるジョン・ラスキンをとりあげる。彼の著作は、同時代のフランスにおいて、作家マルセル・ブルーストを始めとする数多くの文学者、評論家に翻訳、紹介され、フランスの芸術全般に大きな影響を与えた。ラスキンのフランス受容を綿密にたどりつつ、当時の両国の社会的または文化的状況を探究する。

2. 研究の進捗状況

1) フランスにおけるラスキン受容と文学的動向(特に高踏主義と象徴主義)の関係について、ことにルコント・ド・リール関連のものを中心に資料収集と整理をほぼ終え、色彩論を始めとする美術批評との関わりが深いことが明らかになった。また批評史におけるブルーストのテキストの位置づけもさらに進め、作家独自の美学を反映させたテキストではあるが、詩人もしくはラスキンの各時代の受容のあり方を強く反映した側面もあることが明らかになった。フランスの専門家にはすでにレビューを受け、専門誌への投稿を準備中である。

2) フランスにおけるラスキン受容と美術批評の関係について、特にプリミティヴ派

の評価を巡って調査を行い、ブルースト、ラスキン、マンテーニャに焦点をあてた論文を発表。この問題は美術館制度との関わりが強く、特にルーブル美術館における展示の仕方の変遷について詳細な調査をした。その過程で新たな資料が多く見つかり、その整理をし、この主題についてさらに考察を進める足がかりを形成した。

3) 2)の研究に絡んで、『近代画家論』以降のラスキンの著作と講演記録の調査を進めた。特にイタリア中世絵画と初期ルネッサンスの画家について、ラスキンの言説の変化をたどり、その一部を前述の論文に反映させた。

4) フランスの美術哲学の流れについては、主要な著作を詳細に精査した上で、ラスキンの思想との比較をし、19世紀後半にフランスでラスキンが受容された思想史・美学的背景を明らかにした。その上でブルーストの『アミアンの聖書』序文の考察をさらに勧めて、論文にまとめた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初の計画以上に考察が発達して、研究対象も広がり、またフランスの研究者との活発な交流の成果で多くの新たな資料が発見されたことは評価できるが、当初の目標の一つである、ラスキンに関する言説のデータベースづくりについてコーパスが拡大する一方で、目録作成には多少の遅れが生じている。

4. 今後の研究の推進方策

ことに前述の2)に書いたプリミティヴ派批評の問題にさらに重点をあて、美術教育をめぐる社会制度、美術批評、そして受け手の反応を証言する文学テキストの役割について、考察を深め、4年間の研究の現段階での総括をする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1. 加藤靖恵、「ブルーストと『プリミティヴ絵画』---『スワン夫人をめぐって』の娼家とマンテーニャ」、*Stella : études de langue et de littérature françaises*, n°27, 九州大学フランス語フランス文学研究会、2008, pp. 45-58.
査読有

2. Yasué Kato, « L'unité thématique du Cahier 64 : Leconte de Lisle, la sensualité et l'amour », *Bulletin d'informations*

proustiennes, n°38, Editions rue d'Ulm, 2008, pp. 29-40. 査読有

3. « Proust et sa muséologie -- le "musée imaginaire" d'A la recherche du temps perdu », *Marcel Proust 6 : Proust sans frontières 1*, Minard (la Revue des lettres modernes), 2007, pp. 65-82. 査読有

[学会発表] (計 1 件)

1. Yasué Kato, « Les Cahiers 64, 34 et 33 : le peintre Elstir et les jeunes filles en fleurs », 国際学会 « Genèse, édition, interprétation. Les brouillons de Proust », 3月21日, 於Ecole normale supérieure (パリ)

[図書] (計 1 件)

1. 共著 [テキストの生理学]、加藤靖恵担当「感覚の詩学—ブルーストとルコント・ド・リール」 pp. 515~527, 2008, 朝日出版社